



支援教育部ニュース2018

No. 3

2018年 9月 日 発行：大阪府立八尾支援学校支援教育部

1. 第1回ブロック研修会

平成30年8月6日（金）14：00より、東大阪支援学校にて中河内ブロックの第1回研修会が行われました。87名の参加者が「事例から学ぶ支援教育」というテーマのもと、1グループ6名程度のグループにて、それぞれが日々の支援の中で困っている事例を持ち寄り、よりよい支援方法について検討を行い、支援教育に関する理解を深めました。

主な参加者は、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、支援学校の教員でした。様々な校種と各市の教員が入り混じったグループの中で、事例を検討し交流することができました。

事例の一部を紹介します。

- 苦手な課題への拒否感や、勝ち負けへのこだわりが強く、感情のコントロールに課題がある。
- 衝動性(大声、離席)や、学習(書くこと)への困難さがあり、どのように学校生活を送ったらよいか。安心できる居場所を作ることが今後の課題。
- 不登校気味。新しい担任との関係、新しいクラスに不安がある。
- 善悪の区別をつけることが難しく、遊びの延長として物を投げるなどの問題行動をする。注意をしても同じことを繰り返してしまう。
- 言葉で気持ちを表現することや、他者とコミュニケーションをとることが苦手。
- 苦手なことに対して固まってしまう。宿題の取り組みや、集団での活動ができない。
など様々な事例が挙がりました。

これらの事例に関して、

- 障がい特性についての理解と支援方法
- 医療、福祉など相談機関との連携
- 他の学校での取り組み例
- 他校種から見たそれぞれの学校の良さ

などの視点から様々な意見が出ました。そして、同じ地域にある学校や、普段関わることの少ない異なる校種の先生方との交流は、様々な発見がありとても有意義なものとなりました。

2. 中河内地区夏の公開研修

7/30～8/2に本校にて公開研修が行われました。8つの講座に加えて、子ども支援相談会も行われました。ホームページに研修内容についての報告が掲載されているのでご覧ください。

3. 中河内ブロック第二回研修会の案内

1月7日（月）14:00～17:00（予定） 会場：東大阪市立男女共同参画センター イコラーム
講師：伊丹 昌一 教授（梅花女子大学）

4. 今回のニュース内容

第1、2号で紹介した、災害時の障がいのある子どもへの配慮に関連して、本号ではサポートブックについてまとめています。

サポートブックとは？

障がいのある子どもを対象に、その保護者と支援者（学校、福祉機関、作業所など）、および所属する関係機関等をつなぐツールとして、障がいや発達の状態、日常生活における援助の方法などが記載されている。対象となる子どもが、関わるすべての支援者から一貫したサポートを受けられるようにすることを目的としている。

作成者は主に保護者。記入内容や項目は全国での統一はされていないが、自治体や福祉関係機関等が独自で作成しているサポートブックに必要事項が記入されているものや、保護者が子どもにとって必要な情報をまとめてオリジナルで作成しているものがある。

サポートブックに書かれている基本的な項目と内容（例）

1. 自己紹介

- ・名前、年齢、性別、呼び方、学校名、家族構成など。

2. 障がいについて

- ・障がいについての一般的な説明。過敏症状やこだわりなど、特性についても説明されている。

3. 医学的なこと

- ・主治医、関連病院の連絡先。
- ・内服薬と内服方法。使用している補装具や福祉用具。
- ・アレルギーの有無や既往歴など。

4. パニック、こだわり等

- ・パニックを引き起こす原因と、パニックになったときの状態や対応方法。
- ・こだわりのあるものや行動など。
- ・苦手な刺激、嫌いな刺激についても具体的に記されている。

5. コミュニケーションについて

- ・コミュニケーションの取り方、気を付けること。
- ・独特のサインなどがピックアップされている。

6. 日常生活の援助について

- ・食事のときの配慮や、サポートの具体的な方法。
- ・トイレや衣服の着脱、お風呂、歯磨き、洗面など。
- ・1日のスケジュールや生活リズムの把握。
- ・性的なことについての具体的なサポート方法。

7. 好きなことやマイブーム、遊びなど

- ・具体的な内容や気を付けること、今いちばん気になっていることなど。

8. 教育や卒業後について

- ・就学前～高校、福祉支援、自立支援の有無など。

9. その他

- ・関連機関一覧や困ったときの相談先、緊急連絡先など。

配布されている自治体や、作成する人によって様式は様々。次ページにいくつか様式を紹介しています。

個人情報満載のため取り扱いには十分気をつけましょう。



10. 様々な活用法

作業所実習などでは？

サポートブックに加え
 個別の教育支援計画
 教育機関の通信表
 スケジュール提示などのグッズ
 実態調査表
 などをまとめて渡されることもある

休日の余暇活動などでは？

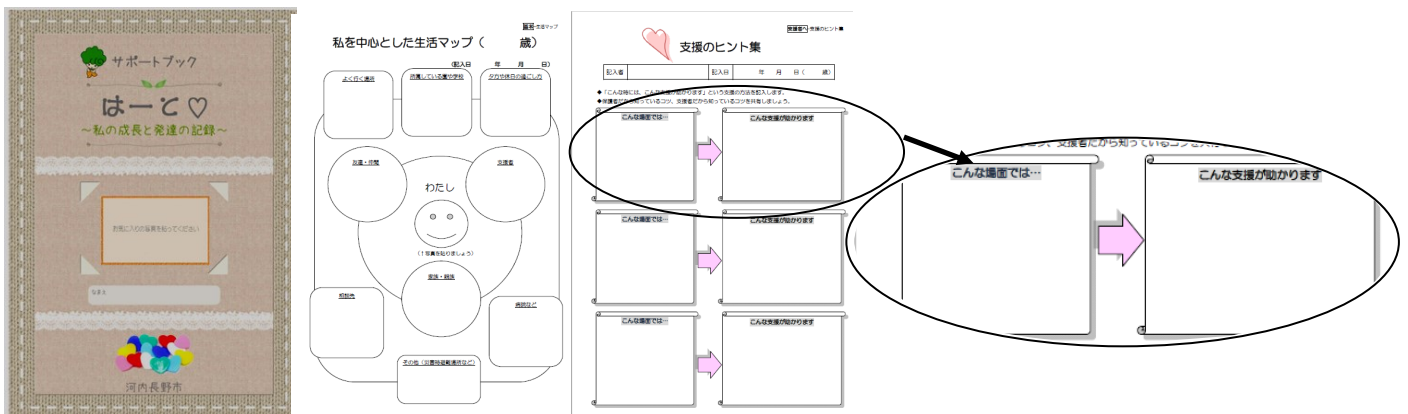
携帯用サポートブック
 最低限の必要事項を抜き出して
 持ち歩きやすいサイズにおさめて
 ある

サポートブックを提供している市町村、自治体を一部紹介します。

(インターネットのサポートブック「うえぶサポ」 <http://www.support-book.jp/> より
 全国で発信されているサポートブックを閲覧、ダウンロード可能)



○大阪府河内長野市 子ども・福祉部 障がい福祉課 サポートブック「はーと」



画像元：<http://www.city.kawachinagano.lg.jp/kakuka/hokenhukushi/>

○神戸市東灘区 自立支援協議会 「まめの木」

本人の情報

入籍、入学、サービス利用などいろんな場面で聞かれることが多い項目です。備忘録としてつけておくと、いざというときにすぐ使えます。

名前			
連絡先			
生年月日	年 月 日	性別	男・女
出生時	体重()g	産胎()週	

【家族構成】

氏名	続柄	生年月日	職業(学校)

【緊急連絡先】

優先順位	氏名	続柄	電話番号
①			
②			
③			

首のすわり	ヶ月	寝返り	ヶ月	お座り	ヶ月
ハイハイ	ヶ月	つかまり立ち	ヶ月	一人歩き	ヶ月
人見知り	ヶ月	離乳開始	ヶ月	離乳完了	ヶ月

食事

年月(歳)のとき記入

一人できる…○ 声をかけるとできる…○ 手伝うとできる…△ できない…×
 空欄は「このフォローがあればうまくなります」ということを記入してください

年月(歳)のとき記入
経管・鼻腔・胃ろう・腸ろう…当てはまるものに○
刻み・ミキサー・普通食…当てはまるものに○以下の段階に進む
①座って食事ができる
②手づかみで食べることができる
③スプーンを使って食べることができる
④お箸を使って食べることができる
⑤ストローで飲むことができる
⑥コップで飲むことができる
⑦「おかわり」「減らして」を伝えることができる

「まめの木」

年月(歳)のとき記入

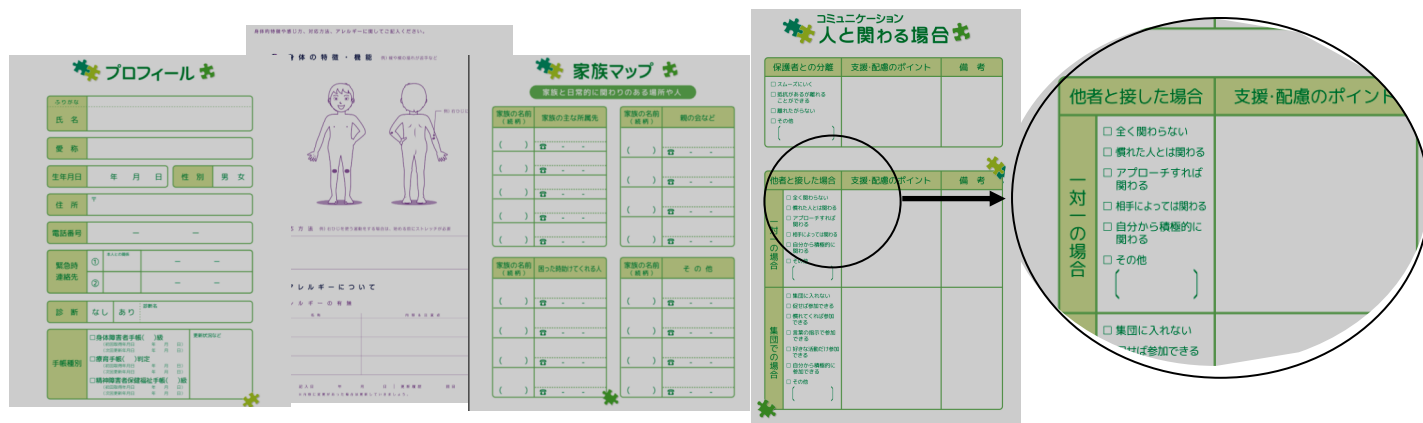
混乱しやすい状況

要因

行動

大声を出す
食べ物以外でも口に入れる
手にした物を投げる
他の人を押す、噛みつく、引っかく、叩くなどの行動がある
自分の髪を引っ張る、顔を打ちつける、叩くなどの行動がある
衣服を脱ぐ

画像元：<http://www.hnada-jiritsu.org/mame>



サポートブックQ&A

●サポートブックを使うタイミング

事前に読むのが基本。覚えられない内容は携帯用サポートブックとして抜き出し、持ち歩いてその場で確認することもひとつの使い方です。また、活動前や活動中だけではなく、活動後のふりかえりにも活用できます。1日の活動が終わったら、うまくいったこと、失敗したことなど、そのときの周りの状況、自分のサポートと本人の様子などを思い出しながらサポートブックに目を通すことで、なぜうまくいったのか、なぜ失敗したのかなどの理由が見えてきます。ひとつひとつのサポートが持つそれぞれの意味や、その子の新たな一面を知ることにつながります。

●サポートブックを受け取る人は？

教育機関では担任を含めた学年団や学校全体、その子に関わる全ての教員が目を通し共有することが基本です。また、様々な福祉事業所、実習先などに渡り、いつ、どこで、誰が関わっても同じサポートをすることができるようになっています。人や時間、場所によってサポートが変わることで起こる混乱を防ぎ、もし担当者に何かあったときに担当以外の人がかバーに入っても、サポートが同じならば本人の安心感も確保できます。

●個人情報がたくさん載っているけれど、どこまで使う？

サポートブックを受け取った時点で、「活動にサポートブックを携帯してもよいか?」「そのときに注意することは?」「サポートブックの返却方法は?」など、サポートブックを使うときのルールや確認事項を、保護者と学校、事業所などお互いに確認することが必要です。

サポートブックを受け取ったら・・・

サポートブックには、その子を近くで見ている保護者や支援者の思いが詰まっています。たくさんのサポート方法が記されており、受け取ったサポーターにとっては、その子と関わることへの不安を和らげることができるかもしれません。しかし、あくまでサポートブックの主人公は、障がいをもつその子自身。その子のためのサポートブックであることを忘れずに・・・

どんなことを分かってもらえなくて困っているのか？

どんなふうにサポートしてほしいのか？

どんなサポートをすれば、より笑顔になれるのか？

その手助けのひとつがサポートブックなのです。